



大使メッセージ

本日は、在ネパール日本国大使館のホームページにアクセス頂き、誠にありがとうございます。

まず最初に、3月12日に発生したカトマンズ国際空港での飛行機事故によって亡くなった多くの方々に心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の方々にお見舞いを申し上げます。事故の原因は、現在、国際的な調査委員会が調査中ということですが、日本政府としても、このような悲惨な事故が二度と起こらないように、カトマンズ空港の安全性向上のための協力を継続している所存です。

さて、昨年から今年にかけて、ネパールでは政治面で大きな進展がありました。2年半前に制定された新たな憲法に基づき、昨年末には連邦下院と7つの州議会の議員を選ぶ全国選挙が行われ、UMLとマオイストの左翼連合が大きな勝利を収めました。その結果、本年2月、UMLのKPオリ党首が新たな首相に選出され、マオイストやFSSF-Nなどの政党と連立を組んで、現在、新たな内閣を組織中です。また、3月には、UMLのビディア・デビ・バンドリ女史が大統領に再選され、マオイストのクリシュナ・マハラ前外務大臣が連邦下院の議長に選出されるなど、新たな国家体制が出来上がりつつあります。

KPオリ首相の新政権は、連立パートナーの議席も合わせると連邦上院、下院で3分の2以上の多数を占め、7つの州議会でも全てに過半数を占めるなど非常に安定した政権になると考えられています。これまで、ネパールでは、2008年の民主連邦共和国成立から現在までの10年間に12名の首相が交代するなど政治の不安定が続き、そのために長期的な経済発展政策の立案、実施が妨げられてきました。

ネパールは世界有数の水力発電の潜在力を有し、世界最高峰のエベレストやお釈迦様の生まれたルンビニなど数多くの観光資源や、ゴルカ兵に代表される優秀で勤勉な人的資源にも恵まれています。この国が依然として世界最貧国の一つに止まっているのは不思議なことですが、その最大の理由の一つは、上記のような政治的な不安定にあると言われています。

しかし、この観点から、非常に強い支持基盤を有する今回のK Pオリ首相の新政権には、大いに期待できると思います。新政権が長期にわたって民主的、安定的な政治を行い、ネパールの経済発展と国民の福祉増進のために力を尽くされることを期待します。

日本政府は、真の友人として、今後とも可能な限りネパールの民主化と発展を支援していく考えです。

平成30年3月19日
在ネパール大使小川正史